

# 大安寺の院主さん

★第一学院高等学校  
奈良キャンパス

★2年生★

① 始めた。。。。

今日私がこの授業で大安寺の院主さんのお仕事の内容を調べようと思ったのは、同じバイト先の人のお家がお寺と聞いたことからでした。

その人は「継ぎたくない」と言い、今の仕事をしています。しかし、その話を聞いた周りの大人達は口々に「もったいない」「どちらが安定しているの」と言いました。

そこで私は、「院主さんってどんなに安定した職業なのか?」「そもそもどんな仕事をしているんだろう?」と疑問に思いました。

そして、家から近い場所であり、有名なお寺であるのにもかかわらず、訪れたことのない「大安寺」に訪問し、院主である黒木さんにお話を聞きました。



② 黒木さん(大安寺の院主さん)  
にインタビュー!!

(※ 生→生徒 黒→黒木さん)

生 黒木さんはどうしてお坊さんになられたのですか?

黒 ー。僕の場合は家がお寺であつた訳でもないし、そもそもお坊さんになりたかつた訳ではないんです!! ただ、何かの縁なのか、高野山大学に入って、真言宗系の免か強をしたらんです。その後、大学の図書館で働いていたんですけども、これもまた何かの縁でお坊さんになる道ができてね。それで100日間の修業にはげみ出家したんですよ。

生 もともとお坊さんになる気がなかつたのに、今もその職業を続けているのは何故ですか?

黒 僕がはじめに行つたお寺のおかげかな。この大安寺の前々人だけでも、そこで本当に不思議な体験を何度も何度もしたんですよ。

生 それはどんな体験ですか?

黒 ある日、お寺の一部が古くて使えなくなっていたのをみた上の院長さんが修理を頼むと言ったんですよ。でも、そこまで気にならないし、何千万円と言う大金が動くから皆が嫌な方がいいのよと思っちゃったんですよ。  
それで修理が終わって数日後、修理代さえる額のお金が寄付されたんですよ。たまたまなのは分らないけれど、何さまはみているのかなと思いましたね。

生 そのような経験をして自分自身何が変わりましたか？

黒 変わりましたね。  
何さまに対する気持ちの持ち方が変わりました。「本気で願えばその分返ってくるんだ！」と思いましたね。

生 そのように感じる事ができて、仕事の仕方も変わりましたか？

黒 もちろんです！ ただ、初めて何さまの前で立つと自分が飲み込まれそうになって後ろに倒れそうになったんですよ。けど、「強く、本気で願う」ことを実行していくうちに何さまと向き合えるようになってそのときに初めて納得のいく仕事ができるようになりましたね。

生 では、大変事になってからはどうですか？

黒 前のお寺でたくさんのお話を学んで来た場所だから、次は自分が後輩たちに伝えていこうと思いましたね。  
ただ、みんな考えはバラバラです。同じ仕事をやっていても、「の人たちの病気を本気で治してあげたい」と願っている人とマニュアル通りの仕事をするだけの人と様々です。

生 黒木さんの目から見ると、どちらのタイプの人の方が多いですか？

黒 悲しいですが、マニュアル通りの人が多かったですね。  
「坊主まるもうけ」なんて言葉を聞いたことはありますか？

生 いえ、ないです。けれど、ひとつ疑問に思うことがあって...。  
周りの人たちは「お坊主さんは安定している」と言うのですが、どうなんですか？

黒 どうであれ。変な話、裕福な暮らしをしている人がほとんどです。  
高級な車が何台もあつたり見たこともない、高いワインが食卓にあつたり...

生 なんだかお坊さんのイメージとかけはなれてる!!!!

黒 でもこれが現実。たとえばお葬式とやらとあるでしょう?  
そうしたら、スゴイなるとたつた1回のお葬式だけで何千万でお金が入るんだから!  
そんなアルバイトないでしょう?笑

生 ないです! ないです! 笑

黒 だから、「坊持ももろか」だなんて言われたんですよ。  
ただ、そんな姿とみてるからこそ、お洋の子供ほど「系ぎたくない」と言うものなんです。

生 私の知人もそんな人がいます。周りの人たちは「系いだ方が良!!」て言うんですけど...

黒 たぶんその人は幼い頃から表のお坊さんの姿と仕事外の姿のGAPさまのあたりにして、た  
方がもしませんね。そのような考えで「系ぎたくない」と言う人は系語構築多しですよ。

生 では、最後に黒木さんがこれからお坊さんになりたいと思ふた方にメッセージを送るならば、  
何を伝えたいですか?

黒 どんな仕事でもどうであつても、マニュアル通り、やることを忠告すればお金はもらえます。  
参拝客から文句と言われることもありません。  
ただ、来てくださった方を心から「このお手に来て良かった」と思わせることはできません。  
一番大切なのは、こゝ、大層寺であればがんの治療をしている人たちが病気が良くなるよつたと来ます。  
その気持ちと私たちが院長たちが何さまと向から合つて心から願ひを伝えることです。  
どうもと今までの中で「がんが消えた!」「良ひ方向に進んでいふ」「有難う」と言うよつた  
嬉しい言葉を多しいたたきました。  
たつたこと、参拝客さまを満足し、帰つてもうつたは何さまと縁で向から合つことが大切だと思ひます。  
お金目当てなつたでなつたのではなく、よつたに何さまを敬う気持ちと捧つてほしひであつた。

生 命は本当に有難うござつたりました。

## ◎感想

今回初めて院長さんの仕事についてお話を聞きました。  
自分の中にあったお坊さんの儀一ツとはかけ離れた生活を送っている話も、  
疑問に感じていたお話をたくさん聞くことができました。  
私は咳せんとくと言病氣を持っています。  
何度もおばあちゃんに「お寺さんに行こう」と言われました。  
何年たってもマシにならず、効く薬もない。  
最後は神頼み、そんな言葉があるように、何さまにお願ひしようと言われました。  
この話と黒木さんにした時、「病は氣から」と言う言葉があるように、  
何か幸いことが重なると気分が落ちている時に体調と崩れは少なくありません。  
その反対に喜びを見つけ、口角を上げて気分を上げていると、体調も良くなります。  
そんな「氣」の手伝いがあるのが院長の仕事だとおっしゃっていました。  
「治りますよ」、「良くなりますよ」、これを何に信じ、願ひ、その思いを私たちに届ける。  
そして帰りときは「何だか楽になった気がする」、「頑張れる気がする」、その「氣」が出てきて  
お寺を後にして帰るのが何よりもの喜びだそうです。

今回の授業で、院長さんにインタビューするという貴重な経験ができて、良いお話をたくさん聞いて  
勉強になりました。

どんな仕事にも大変なことがあり、やりがいのあることがあります。

今度いつか「坊主さんもうけ」なんて言葉を口にしてる人を見かけた大きな声で、さうでない、院長さんの  
仕事の素晴らしさを伝えたいなと思いました。